

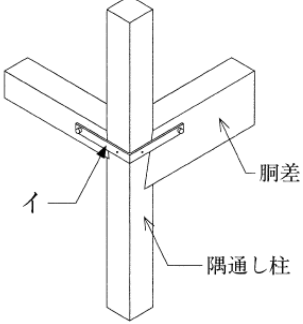
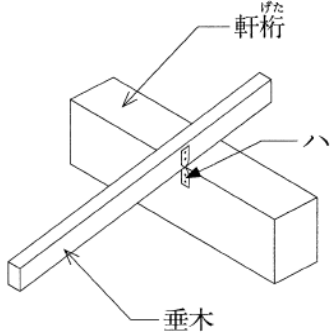
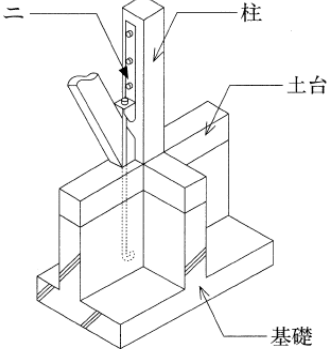
V 施工(14. 木造工事) ①重要事項の解説

「14. 木造工事」で2回以上繰り返し出題のある重要項目(H8～H27)は、下記の通りである。

(1) 接合金物

※過去に選択肢問題として12回出題有

・接合金物は、最も多く12回出題があるが、その中でも下記3種類は、3回ずつの出題である。

 <p>イ:かね折り金物</p> <p>建築物の出隅にある通し柱と胴差との取り合いは、かね折り金物を使用する。この問題は、「かね折り金物」を「かど金物」として間違った出題がされたので、併せて覚える。</p>	 <p>ハ:ひねり金物</p> <p>垂木の軒桁への留付けは、ひねり金物とする。この問題は、「ひねり金物」を板状になっている「短ざく金物」として間違った出題がされたので、併せて覚える。</p>	 <p>ニ:ホールダウン金物</p> <p>筋かいが取り付け柱と基礎との緊結には、引き寄せ金物(ホールダウン金物)を使用した。過去3回は、全て正解肢としての出題である。</p>
--	---	---

(2) 溝じゃくり

※過去に選択肢問題として2回出題有

・敷居及び鴨居の溝じゃくりは、木表に溝をつくる。

(3) 木れんが

※過去に選択肢問題として2回出題有

・建具枠や間仕切り壁下地を留め付けるための木れんがは、樹種をひのき等とし、コンクリート面に木れんが用接着剤又はあと施工アンカーにより取り付ける。

(4) 筋かいと間柱との取合い

※過去に選択肢問題として2回出題有

・木材の筋かいと間柱との取合い部分については、間柱を筋かいの厚さだけ欠き取り、釘2本を平打ちした。

(5) 大壁造

※過去に選択肢問題として2回出題有

・大壁造の面材耐力壁において、上下の構造用面材相互間の隙間は、6mm以上のあきを設ける。

(6) 山形プレート

※過去に選択肢問題として2回出題有

・土台と柱とを山形プレートで接合する箇所は、構造用合板を切り欠き、近傍に釘を増し打ちした。